

寺下観音

[簡易バージョン]

寺下観音は、約 1300 年前、鎌倉時代（1185-1333）に創建されました。仏教における慈悲の仏、観音菩薩を祀る寺下観音は、青森県と岩手県の各地にある三十三ヶ所のお寺を詣でる巡礼ルートの一ヶ所です。QR コードをスキャンしてより詳しい情報をご覧ください。

[詳細バージョン]

寺下観音は、約 1300 年前、鎌倉時代（1185-1333）に創建されました。仏教における慈悲の仏、観音菩薩を祀る寺下観音は、青森県と岩手県の各地にある三十三ヶ所のお寺を詣でる巡礼ルートの一ヶ所です。

入り口に鳥居が立つ広大な境内は、潮山神社も内包しています。明治時代（1868-1912）までは、仏教の寺院と神道の神社が敷地を共有することがよくありました。しかし、明治政府が神仏分離を強いる法律を制定した際、寺下の観音像はこの場所から隣町の八戸にある寺に移されました。最終的にこの像はここに戻され、現在は観音堂に安置されています。

観音堂を取り囲む 33 体の観音像は、西日本にある他の観音寺を表しています。寺下観音からの巡礼者は、これらの寺をめぐるその土を持ち帰り、それぞれの寺を表す像の下に埋めました。こうすることで、長旅のできない信徒も、少なくとも気持ちの上では遠くの寺を訪れることができたのでした。

観音堂からの階段は、八戸藩主が 1720 年につくらせた鐘が下げられている鐘楼に続いています。この鐘は、第二次世界大戦中、武器製造のために全国から金属が集められた際、軍に供出されました。幸い、鐘が溶かされる直前に戦争が終わり、鐘は無事に寺下観音に返還されました。地元の伝承では、この鐘が鳴っている間に鐘の内側に頭を入れると知恵を授かるとされています。危険に思われるかもしれませんが、内側から聞く実際の鐘の音は、とても柔らかで心地良い音色をしています。